

下隊 召喚

小松隊命令

一 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一
 二 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一
 三 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一
 四 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一
 五 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一
 六 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一
 七 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一
 八 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一
 九 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一
 十 隊員 1000 - 1100 區 警備 四 分 隊 二 隊 隊 長 坂 田 一

山三小作命第一六號

小松隊命令

青野 日一三〇



一 部隊 別紙 輸送 計畫 依リ 〇〇 二 向ヒ 前進ス
 二 中隊 八 和 浦 丸 三 乘 船 〇〇 二 向ヒ 前進 セ ヲ ト ス
 三 二 乘 船 部 隊 聯 隊 本 部 一 大 隊 本 部 一 中 隊 五 中 隊
 四 輸 送 指 揮 官 ハ 中 村 大 佐 ト ス
 五 三 乘 船 ハ 二 九 日 ト 予 定 ス ル 毛 細 部 ニ 関 シ テ ハ 別 命
 六 四 自 動 車 並 ニ 貨 物 搭 載 ハ 明 ニ 八 日 ト 豫 定 ス 依 ツ テ
 七 本 一 七 〇 〇 ヲ 貨 物 集 積 並 ニ 自 動 車 分 解 ヲ 左 ニ 依 リ
 八 實 施 ス
 九 貨 物 (M 以 被 兵) 第 二 岸 壁
 十 二 自 動 車 分 解 第 二 岸 壁 二 通 ス ル 道 路 附 近
 十一 三 尚 貨 物 指 揮 官 第 一 小 隊 長 自 動 車 分 解 指 揮 官 第 一



二小隊長トスベシ

細部ニ関シテハ現地ニ於テ各小隊長ヲシテ指示セシム
五第三小隊長八一三〇。門司港湾局運輸部ニ到リ乗船
ニ関シテ輸送指揮官並ニ船舶司令部ニ連絡スベシ
六伊藤軍曹ハ船舶司令部補給廠ニ到リ分解自動車
梱包材料、補給ニ関シテ連絡スベシ
七予八一六〇。第二岸壁爾後自動車分解位置ニ在リ

中隊長 小松保男

下達法 口達筆記

六三小作命第一七號

小松隊命令

七月二十九日(二) 司

一 中隊八一四〇〇八九八丸ニ乗船セシトス

二 乗船順序ハ建制順序トス

三 船内ノ配當ニ関シテハ指揮班長ヲ

シテ指示セシム

中隊長 小松保男

下達法 口達筆記

九月二十八日
晴
門司



五 輸送船、積込準備

一〇六三〇 岩崎中尉以下三十名隊屬兵器貨物搭載

ノ為門司埠頭第五岸壁ニ先發ス

ニ主力ハ〇八三〇ヨリ搭載ノ為第二岸壁ニ到ル

三一〇〇 搭載開始

四翌二十九日〇三〇 搭載終了全員良ク上司ノ意圖ヲ奉ル事故ナク完了ス

一〇六〇〇一〇八〇 指揮班長以下二〇名師團彈藥ノ搭載ヲ援助ス

ニ主力ハ丸山國民學校ニ於テ出發準備

三一二〇〇 山八三小作命第十七號下達

四一三〇〇 空襲警報發令

五一六〇〇 門司港ヲ出帆シ門司港外ニ碇泊ス

六 高橋伍長以下二名貨車一車輛追及中隊ニ合ス

七月十九日
晴
門司



七月三十日
晴
八九八丸



七月三十日
晴
八九八丸



所見



一 乘船後ノ環境ノ整理
二 新任地ハ沖繩島ナル旨發表アリ對潛對空訓練
並ニ船内生活航海中ニ於ケル諸注意事項ノ教育ヲ
實施

一 狹隘ナル船内ニ於テモ全員極メテ志氣旺盛
對潛對空並ニ退船訓練ヲ反復實施
二 二〇〇輸送指揮官ヨリ諸警報ニ関スル命令ヲ
受領シ下達ス

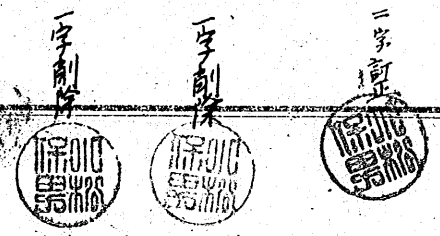
一 行動ノ秘匿ニ就テ

輸送間特ニ列車輸送ニ於ケル企圖ノ秘匿ハ本輸
送ノ性質上特ニ緊要ナリ之ガ為客車代用貨物
列車ノ裝置設備ヲ改善スルノ要アリ
即チ炎暑期ニ於ケル通風裝置給水設備及廁
ノ設備等ハ特ニ企圖秘匿上必要ナル事項ト思考
セラレタリ

ニ 行動間ニ於ケル連絡者ノ派遣ニ就テ

軍隊ニ於テ行動ノ前ニ於テ周密ナル計畫ヲ
樹立シ之ガ實行ニ當リ前ノ偵察連絡ヲ要ス
ルハ贅言ヲ要セザル所ナルモ特ニ本行動ノ如ク
準備未不々完全ニシテ出發ヲ命セラレタル場
合特ニ部隊ノ先遣等ヲ命セラレタル際ハ小部隊
ニアリテモ相當有力ナル連絡者ヲ先發セシム
ルヲ要ス

中隊出發以來部隊集結予定地迄何等死節
時無ク極メテ順調ニ到着シ得タルハ先發者ノ連絡
ノ適切ニ負フ所大ナリ



軍事紀略

自昭和十九年八月一日
至昭和十九年八月三十一日



陣中日誌

輜重兵第三師隊第五中隊

一字訂正



八月
晴
八丸
船中

晴後曇
目張浪高
八丸



- 一〇五〇 懐シノ故國ヲ後ニ勇躍壯途ニ就ク全員志氣愈々旺盛意氣軒昂ナリ
- 二一三〇 退船訓練實施 左講評ヲ受ク
イマタク真劍味ヲ缺ク者一層真劍味ヲ以テ迅速
齊整ニ行動スル様幹部ハ注意セヨ
- 二 服裝不充分(水筒ニ水無イ者救命胴衣ノ附方無イ者携行食チイ者)
- 三 勤務者又ハ仕事ヲ命ゼラレタル者ニ動作不充分
- 四 對潛監視不確實ナリ全員ヲ以テ警戒セヨ
- 五 マタ命令會報ノ傳達不充分ナリ尚一層確實傳達ヲ
- 六 晝間ハ努メテ寢ル様ニセヨ
- 一〇二〇 退船訓練實施
- 二〇六〇 起碇
- 三 海上浪高ノ船体動揺激シキ為ニ十五名ノ船員志